

コンヌ・カスパロフ同型について II

緩増加既約ユニタリ表現の本質的な部分に関するヴォーガンの分類

P. クレア, N. ヒグソン, 宋言理

Abstract

本論文は、連結線型実簡約群に関して C^* -代数の意味での森田同値の範囲内での被約 C^* -代数の計算および、実簡約群に対して作用素環の K 理論におけるコンヌ・カスパロフ予想が成り立つことを証明する連作の第 2 部である。第 1 部では、森田同値とコンヌ・カスパロフ射を紹介した。この第 2 部では、緩増加既約ユニタリ表現の分類に関するヴォーガンの記述を用いて、この射を計算する。実際には、さらに進んで、緩増加既約ユニタリ表現の中で K 理論をもつ本質的な部分について、その表現論的に完全に記述してそのパラメータ付けをヴォーガンの用語で与える。